

桜まつり舞台風景

--4月5日(土)・6日(日)--



桜吹雪の中の熱演

----- さやま・文化の息吹 -----

吟詠連盟への展望

現在、狭山市吟詠連盟の在籍数は157名。この人数を維持することが至難の業である。少子高齢化の波に押し流され、淋しい限りです。このまま手を加えず何もしなかったら、吟詠連盟消滅の危機にさらされることは明白です。私をはじめ各流派の方々も日夜勧誘に精進致しておりますが、会員獲得までに至らないのが現状です。会員獲得の最も早い方法の一つは、自分の孫や娘さんを説得し入会を勧めること、この三月、年度末に「定年」で会社や役所を辞職なさるたくさんの方を、生涯学習の一つとして吟詠の世界へ勧めることだと思えます。

聖路加国際病院理事長で、現役医師として活躍していらっしゃる日野原重明先生の言葉に「子どもに見返りを求めず生き甲斐を探す」「好奇心を持ち、あらゆるものに挑戦すること」と説いています。また元経済企画庁長官・堺屋太一先生も「高齢化大好機」という本の中で、高齢者はお金よりも知恵を貯め人脈を拡げて、若い方から好感をもたれる魅力ある老人を目指すべきだ、そして長い経験と多くの知識とそれを語る表現力を持つことだと悟っています。

「定年」を迎えてもまだまだ元気一杯の熟年層の獲得、勧誘に全力をあげ、より充実した吟詠連盟にしたいものです。



狭山市吟詠連盟 会長 小湊 壮雲